

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.2〉

〈厚南④ 散策マップ〉

厚南地区の道は比較的高低差が少なく、歩きやすい条件が整っている。ウォーキング愛好家で編成する「ぶらぶらウォーキング」(加藤孝明会長)は、年4回のイベントで区民の健康増進を図り、地域の魅力も発信。加藤会長、メンバーの黒石達夫さん、西村康子さんの3人に、初心者でも無理なく歩ける4キロコースを紹介してもらった。



高低差少なく歩きやすい

御撫育用水に 神社・仏閣も

月5日に開校し35年間存続したが、児童数の増加による校舎増築の余地がなく、土地が低温で健康に適さないことから、1921年に現在の高台に移転した。

厚南小跡を過ぎて200坪ほど歩き、宇部総合支援学校前の道から中野公会堂前を通って厚南中へ。校舎のそばには第26回UBEエンターレ(現代日本彫刻展)で緑と花と彫刻の博物館賞を受賞した浅閣の統廃合で1901年

野芳彦さんの「いしず」に平原八幡宮の分社飛び地境内となり、際波台から現在地に移った。社殿は27年に改築されている。

同神社を折り返して向かうのは歴史情緒漂う蓮光寺(⑥)写真。境内

広々とした駐車場が便利な厚南市民センター(①)が出发点。正面入り口を右に出て中野団地1号公園を過ぎると、御撫育用水路(②)が見えてくる。用水路沿いにあるのは厚南小跡(③)の立て看板。1886年12

高台にある厚南中の通学坂からは、30年以上に先代住職の伊東昌昭さんが少しずつ植えて増やしたモミジ、ドウタンツツジ、ムクロジなどが並ぶ。11月に行うライトアップイベントには、市内外から多くの人が訪れる。



市民センターを出発し、休憩を含めて2時間ほど。運動不足の体には「たえるが、踏破した時の達成感は大い。ぶらぶらウォーキングでは、年に1度「スタンプラリー」を開催。趣向を凝らした企画で徐々に参加者が増え、今では家族連れなど毎回約200人が詰め掛けるイベントに成長した。コロナ禍の中、仲間と一緒に歩いて足元にある魅力を再発見し、みんなで共有することで場所の価値を高め、郷土愛の醸成にもつなげてほしいと考えている。

次回は小羽山地区。28日スタート。